

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100298		
法人名	有限会社 アスト		
事業所名	グループホーム ほのぼのファミリー1F		
所在地	上川郡東川町北町5丁目4番10号		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173100298&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした共用空間でご入居者様と職員の家庭的で和やかな雰囲気が感じられ、ご入居者様一人ひとりが安心して過ごせるように取り組んでいる。また、個々のスキルアップのため、外部研修へ積極的に参加している。法人全体での行事や祭りには地域の方々にも案内して多くの方々に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道道の旭川大雪山層雲峡線で旭岳や天人峡の観光地を抱える東川町の入口に位置する所に当施設がある。今年の6月に平屋の上に1ユニット増設した。各居室の扉を開放し、窓からの採光がホール・居間全体に広がり、明かりに満ち溢れている。屋外に避難用の階段を設けている。防災・避難訓練を2回行い、補助を受けて来年1月にスプリンクラーを設置する。全員避難にほぼ3分で終了し、次は夜間訓練につなげるようになった。熱源はすべて電力にし、火元になるものを遠ざけている。施設は地下水を汲み上げて屋上に貯留タンクを設置し、訓練では消火栓にホースをつなぎ放水を行った。同じ法人が経営する隣の老人ホームが退避場所になっている。自然災害のない地区ということではあるが、出火元になるものを避けた対策は十分生かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスとして「ご入居者様の立場に立ち残存能力を維持・向上し、普段の生活を継続し、安心して過ごせるよう支援します」を運営理念として全職員で創りあげている。	運営理念（・入居者の持てる能力の維持と普段通りの生活の維持・充実した日々の満足を実現すること・個人の尊厳を大切にすること・寄り添う介護であること）は全職員が参加して作り、入り口の壁に掲示してある。ネームカードの裏に明記し、各自が確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体での行事・祭り等には地域の方々にご案内して多くの方に参加して頂いている。また、近辺の高校の学校祭などへの参加を通じて地域の人達との交流が図られている。	事業所全体で取り組む行事には地域の皆さんにお便りで知らせ、施設の祭りには大勢の来訪者がいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組めていないのが現状であるが、地域支援等で協力できる事があれば行っていく事となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーはご入居者様・ご家族・役場職員・民生委員・管理者・職員で構成され、行事や祭り、ホームの活動報告など、その際の意見をサービス向上に活かしている。	老人ホームを含めた事業所全体で運営推進会議を行っている。今年は5月に1回開かれた。新規開設もあり、施設整備に費やされたきらいがあった。	運営推進会議の意義を理解し、定期的（年6回以上）に開催することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの行事への参加を呼び掛けるなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。	1ユニット増設の認可から建設については、町と協議をしながら取り組んできた。これまでも町の支援を受けながら運営してきている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室には鍵は設置しておらず、本人が過ごしやすい環境作りをしている。	入口を入ると職員のテーブルがあり、職員は出入りする人の動きを把握している。夏は外出する利用者がいて、その時はさりげなく後を追いかけて、寄り添うようにしている。安全の面から夜間は玄関の施錠をしている。	

グループホームほのぼのファミリー1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご入居者様への虐待がないように、常日頃から職員同士も配慮し支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関する研修への参加や研修内容を職員全体に周知し、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に本人・ご家族への説明をし契約を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に気軽に話せる雰囲気作りを心がげ意見や苦情・相談が言い易いように取り組んでいる。また、出された意見や苦情は速やかに検討し改善に向けて取り組んでいる。	これまで利用者・家族からの要望意見は無かった。家族の訪問時には、近況の様子について情報の提供を積極的にしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の経営方針会議があり、又、定期的に会議も開かれており、その場で出た意見を反映できるようにしている。	管理者は各職員の提案や意見を聞く機会を設けている。職員の異動が多いと家族から指摘されている。	管理者は定期的な会議のほかにも常に目配りをしながら、意見要望を聞くように努めてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々での目標を設定し、向上心を持って働けるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においてグループホーム協議会や保健所主催のセミナーなどへ積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ちグループホーム協議会での研修などで交流を図りケアサービスの質の向上に取り組んでいる。祭りなどの行事で地元その他グループホームとの行き来があり、その際に情報交換や交流を図っている。		

グループホームほのぼのファミリー1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談・申し込みの際はご本人と十分に話し合い、顔なじみの関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を把握し家族のみで悩む事のないように親身に話を聞きサービスを提供していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から十分に話を聞き・要望・希望の中から一番必要としているケアを見つけ出し支援していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場におかず、ご入居者様と好きなテレビを見たり、趣味を一緒に行って喜怒哀楽を共有し、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族様と話し合いをし、希望・要望や不安に思っている事をフォローしながら、本人とご家族の関係が良好に保てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪した場合等は、個室でゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。	利用者の知人・友人も高齢者になり、年ごとに訪ねてくる人は少なくなっている。行きたい場所(お寺・お墓)の送迎は家族が行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の間でトラブルがなく円滑にコミュニケーションが出来るよう職員が必ず一緒に輪を作り支援している。		

グループホームほのぼのファミリー1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所への転居、病院での療養となった方に関しては、ご家族との連絡や訪問などして関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を踏まえ、本人や家族の意向や希望を把握し、職員間での情報を共有して本人の思いが実現できるように支援している。	利用者は次第に介護度が重くなり、自分から希望・意向を表現しづらくなっている。身近に寄り添って、身振り・手振り・目配せや単音から汲み取って、さりげなく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の面談時に本人や家族に話を聞き、生活歴などを把握し、職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の要望に沿えるよう趣味活動の支援や毎日のバイタルチェックを行い健康状態の把握、又会話によって本人の思いを確認しながら支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様との日常会話や関わりの中で情報収集をし、本人やご家族の意向や希望、医師からの助言を介護計画に反映させている。	日常の様子を把握し、全職員で支援の方法を模索している。膝痛で歩けなくなった利用者が、職員の指導と支援を受けリハビリ病院に週2回通っている。今は手押し車に頼りながらも、一人で歩けるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートへ毎日の様子や健康状態を記入し、一目で様子を把握する事が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望・希望から散歩や買い物・外食・ドライブなどの行事を行っている。併設の有料老人ホームのご入居者様とも交流が図れるようになっていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が可能な医師が確保され、看護師が配置されてご入居者様の日々の健康管理をし、主治医との連携も密に行われている。又、かかりつけ医への受診や町立病院での予防接種なども状況に応じて支援している。	利用者の大半が地方から来ているので、提携医に変更した。カルテ等はかかりつけ医から提供されている。	

グループホームほのぼのファミリー1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を記録し看護師と相談し、必要時は主治医へ連絡・受診が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に関係医療機関と行き来しており、情報の共有や医療的相談をし、良好な関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に配慮し出来る限りホームで対応している。主治医・ご本人・ご家族と話し合い、最良の方法で対応出来るようにしている。	当事業所で終末を迎えるとなると、家族や医師・看護師、職員の連携がどうなるのか課題は多いが、本人の意思確認を再度行っている。医師・看護師の見守りで看取った例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習への参加や救急対応マニュアルなどに基づいて急変時、または事故発生時に対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が設置され、緊急時に全ての職員が速やかに対応出来るようにご入居者様と共に実技を伴う火災訓練を年2回実施し、隣接する運送会社の協力も得ている。火災・緊急時の対応マニュアルと連絡網も作成している。	近くに住む職員が少ないが、緊急連絡網を整備し、隣の老人ホームを含め事業所全体で補完する体制が作られている。	火災だけでなく、自然災害の発生も想定し消防団や町の警察・消防とも連絡を密にとるよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録などの個人情報の取り扱いについては個人情報保護法に配慮した取り組みが行われている。また、ご入居者様一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけや対応が行われている。	言葉だけでなく介助の仕方もやさしく手足を動かし、利用者の日常行動を支えるに相応しい雰囲気づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの体調や希望に合わせて、余暇時間が利用できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調、希望に合わせ買い物や散歩、回転寿司などの外出支援、食後の下膳やリビングでテレビ・新聞を見たりするなど本人のペースに沿って支援している。		

グループホームほのぼのファミリー1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、髪をといたりご本人と一緒にやって行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様のご希望に沿えるように配慮し献立を作り、下膳など本人の希望や力量に応じて支援している。又回転寿司などの外食の機会を設け食事の楽しみを感じて頂けるような配慮をしている。	重度化が進み、自ら調理や味付けや後片付けできる人がいなくなった。味の好みや咀嚼力に合わせて調理をし、食事介助を受ける人もいるが、ゆっくりよく噛んで完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は生活シートに記録されている。また、本人の状態に応じた食事の提供などご入居者様の状態変化に応じた支援が行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各ご入居者様へ毎食後声かけし、口腔ケアを促し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに適した方法で排泄の支援をしている。	介助の必要な利用者は、職員が車椅子や歩行介助で誘導し、トイレのドアを閉めて外で待っている。自室から一人でトイレに行くときは、足元で移動を知らせるチャイムが鳴り、職員は呼ばれるよりも早く寄り添っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事を提供し、必要時は内服で排便をコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の支援が行われ、入浴の長さ、時間帯においても疾患などに配慮しながら希望に応じられるように支援している。その日の体調により入浴を中止した場合は要望を聞きながら清拭やシャワー浴で対応している。	シャワー浴の装置があり、浴槽に入らないで入浴ができるので、回数増の希望者の要望にも応えることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで過ごして頂き、休息時は本人の意思に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご入居者様の内服リストをファイルしており、職員全員が把握できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを踏まえ、趣味活動を行って頂いたりとハリがもてるように支援している。		

グループホームほのぼのファミリー1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外へ出かけられるようにしている。外出行事では希望などを考慮し行き先を決めている。	歩行介助が必要になり、冬は外出希望者がしだいに限られてきている。隣接の住宅街の散歩で庭園を見ながら四季の移り変わりを楽しむには、地域住民の協力が望まれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話や手紙の郵送があれば迅速に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりがゆっくりと生活出来るように家具を配置し、廊下や居間においても明るい日差しや窓からの風が心地良く入り、生活感や季節感が十分楽しめる雰囲気となっている。	各居室の扉を開放し、窓からの採光がホール・居間全体に広がり、明かりに満ち溢れている。自室で寛ぐ人、広場でテレビを見る人とゆったり過ごせる雰囲気になっている。冬は湿度の確保にも努めていただきたい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にいながらもそれぞれが好きな場所で過ごし、自由な時間を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族などの写真が飾っており、自宅の延長に繋がるように工夫している。	居室には使い慣れた小箆筒と小さな冷蔵庫を持ち込み各自の好みが表示されている。テレビのない部屋もあり、寝室代わりになっている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を活かし、出来る限り自立した生活ができるように支援している。		